

あすなろの家 令和5年度事業報告

令和5年度 力を入れてきたこと

令和5年度は「踏み出せ一歩」をキーワードに、アフターコロナの中、以前の活動に戻すよう取り組みを行ってきた。また、あすなろの家の活動を通してどんな社会にしていきたいのか？あすなろの存在意義を考える活動を取り入れることも行った。

「本物のケア」では、①ESRによる個別指導を75%の職員が受講。受講した職員には大変好評な取り組みであり、不安な介護技術を教えてもらえるという安心感にも繋がっている。②自立支援介護について各部目標数値を立て達成に向けて研修等を行った。③後期からはSC委員会の取り組みを軸に自立支援介護実践報告会を外部向けに企画し地域の同業者の方に伝える場を設けることが出来た。④認知症ケアについてDBDのデータを取り、職員が認知症について学び理解を深め認知症ケアが改善していくことでDBD数値が下がっていくことを目標に実践した。

「本物の接遇力」では、①毎月の振り返りシートを利用し、自分だけではなく周りの職員もできることを目標に意識を上げていった。②地域からの満足度調査、雰囲気の良い地域にもとサンキューカードを配ることも行った。

「本物の繋がり」では、①各部署、自分たちの取り組みを地域に知ってもらう企画を計画、100%実行できた。②あすなろの考えていることを発信しようとインスタのフォロワー数、通信の配布場所を増やすことに取り組んだ。③高齢者だけでなく地域に向けたイベントとしてウォークラリーを年2回実行。シルバー世代以外の参加者40%以上も達成した。

「私たちが」では、①成長支援シートにあすなろの進みたい方向、目的を落とし込み取り組んでいった。また、生産性向上についての取り組みも始めた（気づきシート）。②施設の取り組みに自ら参加する職員が増えるよう、やりたい人を募集する機会を増やした。③あなたのはっぴープランを実施。プライベートを充実させることで働くことのはっぴーも見つけられるよう取り組んだ。

コロナが落ち着き、社会はコロナ前のような日常を取り戻しつつある。さあ、明るい未来へむけて！走りだそう！と行きたいところではあるが、社会には多くの問題が山積されている。

人口構造の変化により様々な問題が懸念されている2025年問題。

国民の約3人に1人が65歳以上、約5人に1人が75歳以上となり、社会保障、主に医療・介護、年金などが限界に達し、社会全体に負の影響がもたらされると言われている。

最大の課題と言われている労働力人口の減少。高齢化社会の進行によって今後はあらゆる産業が人材不足に陥り、従業員の採用競争の激化が予想されている。

数年前より私たち高齢者介護の業界にもこの波はひしひしと押し寄せ、あすなろの家も強く感じている所ではある。

私たちは、そんな状況を認識しながらも、「そんな社会情勢だから仕方ない」「困った困った」とただ見ているだけなのか？いやそうではなく、「どうやってこの社会情勢の中で仲間を増やしていこう？」「自分たちはどうやって事業を展開していこう？」と、あすなろの家が未来に繋がっていくためには、自分自身で切り拓いていかなければならない。

・その他の状況

主な修繕・設備整備の状況

ベッド購入（22台）	4,796,220円
車両入替（3台）	1,534,960円
手洗い自動水栓入替設置（2台）	243,650円
ケアハウス居室エアコン入替（3部屋）	1,865,600円

職員採用状況

退職	正規職員	6人（特養介護職5・特養看護師1）
	期間職員	2人（デイ介護職1・調理員1）
	時給職員	3人（メイト1・夜間管理1・調理員1）
採用	正規職員	1人（特養介護職）
	期間職員	1人（正看護師） ※ 正規職員で雇用 → 期間職員に
	時給職員	16人（メイト12・特養介護1・ヘルパー2・夜間管理1） ※ メイト職員から介護職員に1名雇用形態変更

防災

訓練等実施状況

R5

4月	ケアハウス	地震→火災→避難	シュミレーション訓練（日中想定）	2回
	特養	地震→火災→避難	シュミレーション訓練（夜間）	1回
	全職員	防災倉庫	備蓄品確認	
5月	特養	地震→火災→避難	シュミレーション訓練（夜間）	1回
6月	特養	地震→火災→避難	シュミレーション訓練（夜間）	1回
7月	特養	地震→火災→避難	シュミレーション訓練（夜間）	3回
	ケアハウス	地震→火災→避難	シュミレーション訓練（日中想定）	1回

R6

2月	特養・ケアハウス	土砂災害避難	シュミレーション訓練（日中想定）	
	ヘルパー	地震→火災→避難	シュミレーション訓練（日中想定）	1回

新型コロナ集団感染

・ R5. 7. 13-8. 15

感染者	特養入居者	10名
	ショート利用者	9名
	職員	16名（特養8・デイ3・ヘルパー2・事務1・ケアマネ2）

・ R6. 2. 27-3. 19

感染者	特養入居者	22名
	ショート利用者	4名
	職員	15名（特養8・デイ3・ひかり1・厨房1・事務2）

新型コロナ感染症はR5. 5. 8以降、感染法上の2類から5類（季節性インフルエンザと同等）に移行されました。5類移行により、医療機関を受診した際は、症状・患者周辺の感染状況などから、検査の可否・投薬可否や種類なども、医療機関の判断となりました。これにより、デイ・ショートを利用する方の受入れの判断、症状が発症した特養入居者のケアのあり方も判断が難しいと感じた1年でした。

あすなろ家では、利用者の周辺での感染状況や本人の身体状況などから、受診・検査の可否を判断し、主治医にも意見を伺いながら利用の判断としています。また特養嘱託医（田町診療所）との間では、発熱が38℃以上の方はコロナ・インフル検査キットで検査し感染の有無を判断する。症状の有る方で38℃未満の方は検査はせず、症状のない方との接触を極力避け経過を観察する。認知症等で生活を分けることが困難な方がいる場合は、ストレスを抱えることを避けるため、症状の有る方、無い方でフロアを区切り、広い空間でのケアに切り替えて対応するといこととなっています。

利用率

	目標数値	令和 5. 4/1～令和 6. 3/31 実績
特 養（定員50人）	99%以上（空床174日）	99. 22%（空床149日）
ショート（定員20人）	95%以上（19名/日以上）	83. 5%（16. 7人/日）
デ イ（定員35人）	95%以上（33名/日以上）	73. 32%（25. 66人/日）
ヘルパー	15人/日以上訪問	7. 58人/日
ケアマネ	36人/ケアマネ1人	42. 06人/ケアマネ1人
ケアハウス（定員30人）	100%（空床0日）	99. 44%（空床61日）
ひかりサロン（定員24人）	80%以上（19名/日）	40. 15%（9. 64人/日）延人員

以上